

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

ただの風じゃない！“突風”注意

歩いている、急にドンと強い風に押された経験はありませんか。“急に吹く強い風で継続時間の短いもの”は、気象の世界では総称して「突風」と呼ばれます。

突風と聞くと「竜巻」や「じん旋風（つむじ風）」を思い浮かべる方も多いと思いますが、このほかにも、あまり耳慣れない「ダウンバースト」や「ガストフロント」といった現象があります。

「じん旋風」については、小欄の令和3年10月号「“竜巻”と混同されやすい“じん旋風”」をご参照下さい。

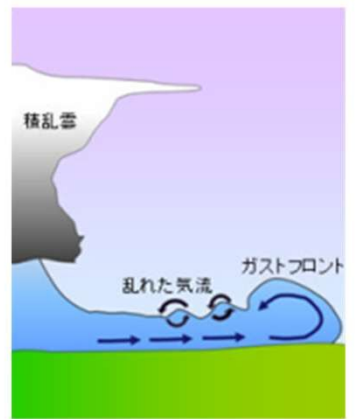
ダウンバースト

積乱雲から吹き降ろす下降気流が地表に衝突して水平に吹き出す激しい空気の流れです。吹き出しの広がり数百メートルから十キロメートル程度で、被害地域は円形あるいは楕円形など面的に広がる特徴があります。



ガストフロント

積乱雲の下で形成された冷たい(重い)空気の塊が、その重みにより温かい(軽い)空気の側に流れ出すことによって発生します。水平の広がり竜巻やダウンバーストより大きく、数十キロメートル以上に達することもあります。



出典:気象庁HP 竜巻などの激しい突風とは

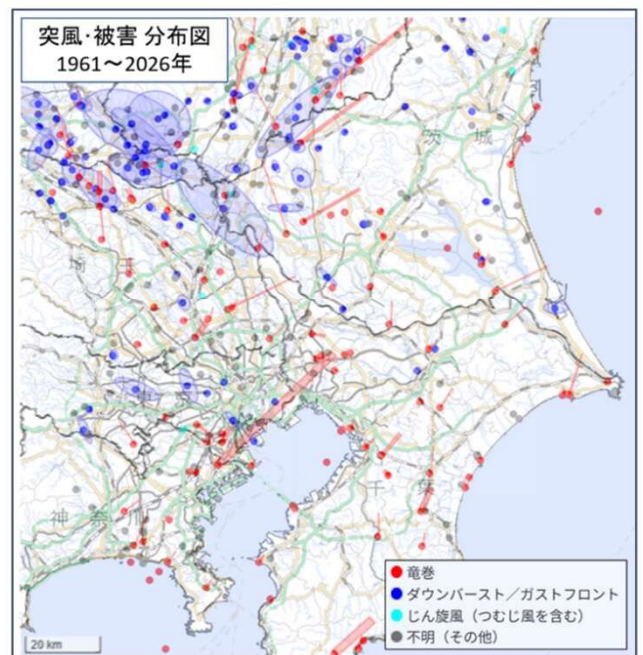
突風は季節を問わず、台風・寒冷前線・低気圧などに伴って日本のどこでも発生します。

竜巻は台風に伴うことが多く9月前後、ダウンバーストやガストフロントは活発な積乱雲に伴うことが多く7月前後を中心に発生します。沿岸部で多い傾向がありますが、平野部でも発生し、特に関東平野では毎年のように突風被害が確認されています。

右図は関東地方で認知された突風とその被害域を示したものです。突風は主に積乱雲に伴うことから、雷が多く発生する栃木県や群馬県などで多い傾向が見られますが、その他の地域でも確認され、決して珍しい現象ではないことが分かります。

葛飾区付近で発生した突風の事例、2つを挙げると、一つは1978年2月28日の夜に発生した竜巻です。

川崎市から鎌ヶ谷市にかけて帯状の被害域が示されているものです。風速70m/s前後で、時速100～130kmの猛スピードで都市部を北東方向に駆け抜けて行きました。東西線中野行きが荒川中川の橋梁に差し掛かったところで、竜巻による風を受け、



被害域:線・帯・楕円で示す

出典:気象庁HP 突風事例一覧 筆者合成加工

後部3両が脱線、うち2両が横転、負傷者21名の惨事になるなど、全体の人的被害は負傷者36名、家屋被害は全壊9棟、半壊280棟などになっています。(出典：気象庁 竜巻等の突風データベース、国土交通省 強風に起因する主な列車脱線事故)

もう一つは、2007年4月28日夕方、江戸川区船堀で発生したダウンバーストです。イベント会場の仮設テントが飛ばされ21名が軽症を負い、外壁工事用の足場の一部が宙づりになるなど、局地的ながら強烈な風が吹き荒れました。

テレビやスマホで、“竜巻などの激しい突風のおそれ”が報じられた際は、天気の変化に十分注意し、最新の気象情報をこまめに確認してください。雷注意報でも竜巻への注意が呼びかけられますが、さらに、今まさに竜巻などが発生しやすい状況になると、気象庁から「竜巻注意情報」が発表されます。

万一来るに備え、早めに頑丈な屋内に入ることが必要ですが、それまで次の気配がないか、5～10分おきに空や周りの状況に気をつけていただきたいと思います。

- ・ 真っ黒な雲が近づく
- ・ 雷鳴が聞こえる
- ・ 冷たい風が急に吹き出す
- ・ 土埃(つちぼこり)が舞う

これらは、積乱雲が近づいているサインでもあります。

また、気象庁は突風の可能性を地図上に示す「竜巻ナウキャスト」も提供しています。外出の際、屋外でのスポーツやイベント関係者にとって、有用な情報ですので、ぜひご活用ください。

竜巻ナウキャスト



出典：気象庁HP

発生確度 2	<p>竜巻などの激しい突風が発生する可能性があり注意が必要。</p> <p>発生確度2となっている地域に竜巻注意情報が発表される。</p>
発生確度 1	<p>竜巻などの激しい突風が発生する可能性がある。</p>



「竜巻ナウキャスト」はこの URL から入手してください。「雨雲の動き」「雷ナウキャスト」もご覧いただけます。

春から夏にかけては、突風が増える季節です。ほんの少し空に目を向けるだけで、危険を避けられる可能性が高まります。どうか安全にお過ごしください。